

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 2 月 23 日

【評価実施概要】

事業所番号	2171400118		
法人名	社会福祉法人慈恵会		
事業所名	さわやかグループホームみたけ		
所在地	岐阜県可児郡御嵩町井尻 6 5 番地の 1 (電話) 0574-67-8322		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町 3 丁目 7 番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成21年2月12日	評価確定日	平成21年3月23日

【情報提供票より】 (平成 21 年 1 月 13 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	9 人	常勤 3 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 6.6 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (平成 21 年 1 月 13 日 現在)

利用者人数	8 名	男性 0 名	女性 8 名
要介護 1	4 名	要介護 2	2 名
要介護 3	2 名	要介護 4	名
要介護 5	名	要支援 2	名
年齢	平均 86 歳	最低 77 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	のぞみの丘ホスピタル、桃井病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

県下でも早期に開設されたホームであるが、南面に田畑が広がり小高い裏山に抱かれるように建つ木造平屋の建物は、天井が高くゆったりと余裕があり、内装も木が多く使われていまだ新鮮で気持ちよく維持されている。定員8名、延床面積218㎡ながらスプリンクラー設備もあって同一敷地内にある他の福祉施設と万全の防災体制が組まれている。食堂から見る椿の生垣には赤い花が陽に映えて、畑ではさやエンドウの芽が籾殻に包まれている。ベテランの施設長、物静かな管理者、近隣在住の職員などに囲まれて、母体法人からの多種多様な福祉・医療サービスの支援を受け、女性ばかりの穏やかで温かな生活がある。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価での改善課題はない。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価や、その後の日頃の支援・介護記録や取り組みの中から感じたことを、管理者がまとめた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>家族、包括支援センター職員、地域住民のほかに市民オンブズマンも参加して、隔月に、行事報告を行いながら、実際に施設や行事の見学を兼ねて行われている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会が年2回開催され、運営推進会議には家族の出席もあり、苦情申立て窓口は6ヶ所も設けられて重要事項説明書に明示されている。そうして得た意見は組織として対応するルールづけが確立されている。</p>
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	<p>老人会に加入し、各種行事に参加しており、花や野菜等の差し入れやボランティアの訪問もある。さらに、地域の人達とのより一層の交流を図るため、盛大な夏祭りを、同敷地内にある特別養護老人ホームや養護老人ホームと一緒に計画している。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人の理念にもとづき、ホームとしての重点目標を毎年明確化している。今年度は「明るい環境づくり」「ひと声かける思いやり」「話せる職場聞ける職場」である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を理解し、その具体的な方針を明確にし、毎年度の具体的な目標として事務室などに掲示して周知徹底を図っている。朝夕の申送り会議にも話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会に加入し、各種行事に参加しており、花や野菜等の差し入れやボランティアの訪問もある。さらに、地域の人達とのより一層の交流を図るため、盛大な夏祭りを、隣接する特別養護老人ホームや養護老人ホームと一緒に計画している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価や、その後の日頃の支援・介護記録や取り組みの中から感じたことを、管理者がまとめた。	○	自己評価を広い意味での自己研鑽・自己啓発の一環として捉え、全員が参画して、自己評価票をまとめていく過程を大切に、その取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、包括支援センター職員、地域住民のほかに市民オンブズマンも参加して、隔月に、行事報告を行いながら、実際に施設や行事の見学を兼ねて行われている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの敷地・建物は町の公有資産であり、施設長は町の老人保健福祉計画等策定委員会の委員を務めるなど、相互に連携しあって地域の福祉サービス向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	認知症が比較的軽度の利用者が多いが、必要などときには随時、電話で報告している。毎月、利用者のスナップ写真を家族に送ることも引き続き行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が年2回開催され、運営推進会議には家族の出席もあり、苦情申立て窓口は6ヶ所も設けられて重要事項説明書に明示されている。そうして得た意見は組織として対応するルールづけが確立されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理職の人事異動はあるが、介護職員は地元の近隣住民が多く採用されており、基本的に人事異動はなく離退職も少ない。全員が利用者8名の担当として等しく対応し、ダメージを少なくするよう日頃から配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人は医療・福祉に大きな組織をもち、その研修体制は確立されており、全体的な水準も高いものがある。法人組織内には看護師、介護福祉士を養成する専門学校をもち、人材養成において、ホーム職員もその恩恵を受けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大きな組織内でのグループホーム同士の交流(交換研修)や、同一敷地内はもとより、地域の施設との交流などが行われ、相互研鑽の機会は多い。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居制度もあるが、ほとんどが同一敷地内施設(デイサービス・ショートステイ)を経験して入居している。そこで行われる各種イベントや毎日のリハビリはホーム利用者も一緒に参加するので、ホーム職員とも入居前から顔なじみの関係にある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入浴の時、食後の語らいの時など、一寸した時にその人の人生が偲ばれるときでもあり、教えられるときでもある。表情・会話・所作など普通の生活が送られている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	比較的介護度が低く意思疎通がとり易いが、入居前から自宅を訪問して本人や家族の意向把握にも努めている。	○	介護のときや食後の語らいのときなどに得られた貴重な思いは、介護記録等に埋没することなくフェイスシート(利用者概要書)に補記するなどして、次代の職員への引継対策を望みます。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者とは意思疎通がとり易いので本人主体の介護計画書が作られている。今後、より一層、家族との話し合いをもって計画に反映しようとしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護記録や朝夕の引継ぎミーティングを通して得られた情報にもとづき、必要な都度見直しされているが、定例的には3ヶ月毎に作成されて家族の了解も得ている。	○	介護計画書に相談した証としての家族の署名等がもらえないときには、理由を付記するなどの記録があるとよい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療系経営母体においては多種多様の施設及びサービス運営を行っており、ホームはそれらの有効的利用を行って医療・福祉の総合的サービスを実現している。買物・通院支援などホーム単独で行われる支援もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの地元かかりつけ医とは十分な連携体制がとられており、また、経営母体の中心である医療法人の病院とも常に協力が得られ、医療面についても安心でき、救急車を呼ぶ必要はない。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	同じ経営母体の中心である特別養護老人ホームや病院が近くにあるので、重度化・終末期を迎えた場合は、いずれかの施設で対応するよう、役割分担を明確にしている。家族にも入居時に説明し、安心を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳や羞恥心、個人情報の利用や管理などについて、研修やマニュアル、サービス規程等は充分配慮されており、実践されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者中心の生活が送られており、できるだけ本人の希望がかなえられるよう支援されている。ボランティア同士が利用者の都合に予定を合わせ、折紙、ヘアカット、そして入浴がスムーズに行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	母体法人の栄養士が楽しい献立を工夫して作成し、それに基づく一括購入の食材配給があり、さらに食事を楽しむ支援の厚みが増している。3食とおやつの手伝い当番表が掲示してある。食後の会話も楽しく続き、促されてようやく席を立つ。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日準備し、基本的には週3～7回午後の時間帯だが、体調よい時・希望の時間が優先され、夜間入浴も可能である。ほとんどが自力入浴で、職員は脱衣所で見守りしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	隣接の施設で行われるリハビリやイベントの参加を日課にしている人が多い。ボランティアの習字・折紙・布ぞうり作りもある。畑では職員が行う花・野菜栽培の手伝いもある。般若心経の読経は毎日行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣は車の通行も少なく、田畑や裏山が近く、八幡神社への参拝など散歩にはよい環境である。買物ツアーもある。月に1度は、全員で外食を楽しみ、日帰り温泉旅行や初詣にも出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はしてない。外出や帰宅願望の強いときは、できるだけ本人に付き添って散歩などを行うよう対応している。居室の鍵は中から自分で安心のため就寝時に掛ける人がいるが、外から使われることは無い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣の企業と災害協定書を結んで緊急時の助けを準備している。食料・水は備蓄し、枕元には防災頭巾がある。スプリンクラーや警報設備などは隣接施設も含め一体として管理され、防災訓練も年2回行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がカロリー・蛋白・脂質・塩分を分析した献立にもとづく食事は、見守りされてその摂取量が記録されている。水分は1日6回摂取となっている。食事の介助が必要な人は1人もなく、偏食にならないよう気配りされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木が多く使われた室内は清潔に維持されて気持ちが良い。共用空間もゆったりと広い。中庭風に北風から守る裏山に囲まれた庭は東南に開き、芝生もよく手入れされ、赤い花をつけた椿の生垣が美しい。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には洗面所があり、ベッドはホームの物が利用者の身体状況に合わせて使われている。タンスや机など本人の使っていたものを持ち込んでもらい、その人らしい居心地のよい居室となるよう努めている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。